

釧路森林資源活用円卓会議

平成26年度の取組

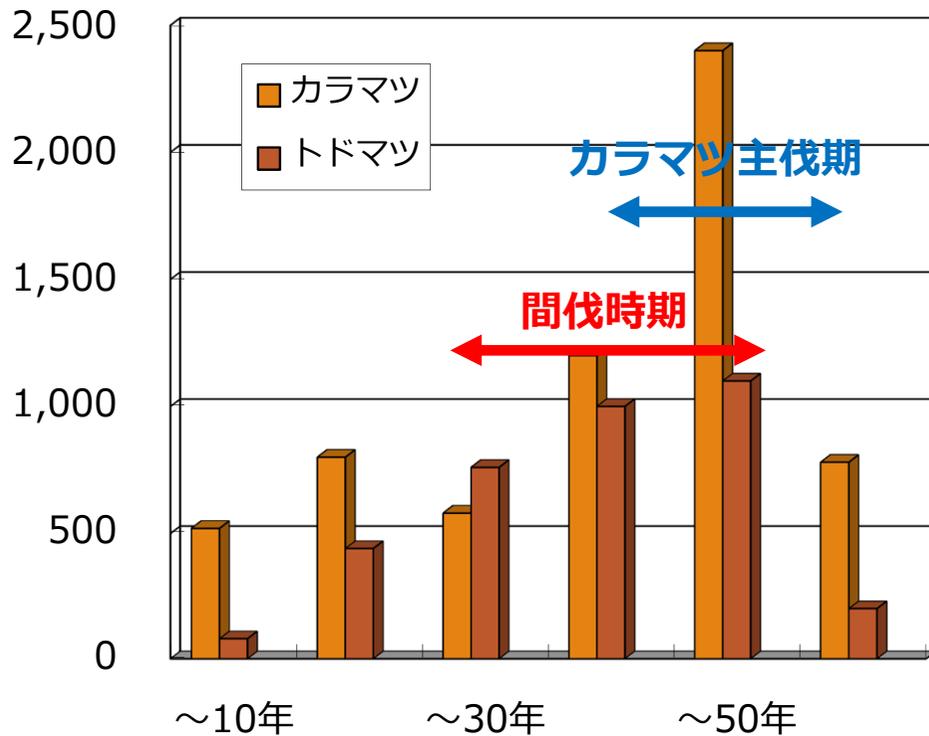


釧路市の森林

	平成25年実績	平成26年計画
間伐 (ha)	112.70	110.68
除伐 (ha)	12.72	—
樹下植栽 (ha)	—	60.93
更新伐 (ha)	60.93	60.52
出材量 (m ³)	8356.472	

市有林面積 5,145ha (うち、音別地区 2,767ha 阿寒地区 1,417ha)

釧路市内の一般民有林資源



豊富な森林資源の有効活用

釧路森林資源活用円卓会議の取組
～木づなプロジェクト～

地域産業の振興
多面的機能を発揮する森林の整備

くしろ木づなプロジェクト

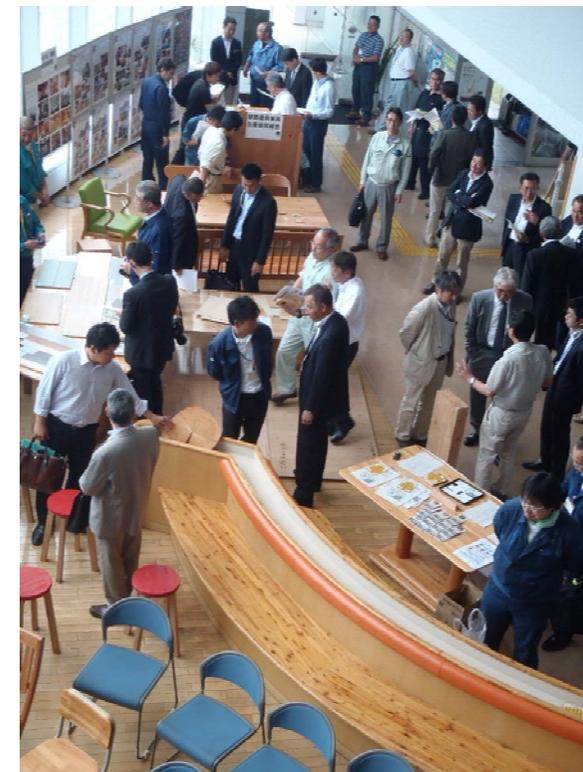
釧路森林資源活用円卓会議は、地元の森林とそこから生まれる木材を活用する団体・企業により平成22年に発足しました。

会議によりさまざまな検討を行い、その具体的な取組は「くしろ木づなプロジェクト」として実施されています。



木づなプロジェクト 「これまで」と「これから」

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
もっと知る ・地域材の品質を明確に示しユーザーの信頼構築 ・流通コストの明確化とコストの低減	●品質（強度・燃焼） ●流通コスト	●品質（木造住宅気密測定試験） ●市有林森林経営計画	●品質（高性能林業機械巧程調査・阿寒）（ハイブリッドログハウス工法開発）
もっと使う ・顧客ニーズに合った商品提供 ・地域内での幅広い使い道の検討	●公共（西部子育て支援拠点センター） ●商品（フローリング、カーフハッチ）	●公共（動物園木道、振興局等） ●商品（ダイニングセット、カホン等） ●学習機の導入 ㊹音別小 ㊺阿寒小 ●くしろ・ねむろ「木づな」の家（地域型住宅ブランド化事業）	●公共（アルパカ舎、とんけし児童C、MOO等） ●商品（展示会等） ●民間（和商市場テーブル）
もっと伝える ・人材育成、利用するエンドユーザ（応援団）増加	●経験の伝承（研修会・シンポジウム）		
	●域内利用 木づくりMAP、ポスター こどもフレンドパーク	ラッピングバス、リーフレット、マグネット メイドイン釧路	ラッピングバス、ポスター、シール、木育教室、木育講座、釧路安心住まいフェア



木づなプロジェクト 「これまで」と「これから」

これまでの活動から多くの成果を生み、様々な課題を発見しました。

そこで平成26年度までの取組を円卓会議の第1期「地域内の問題点を共有、解決するための仕組みづくりの期間」として総括し、平成27年度以降を円卓会議の第2期「行動を拡大する期間」として再展開していきます。

成果	課題	第2期の展開方向（案）
低コスト林業のためには路網整備が必要不可欠という認識	トータルとしての路網整備の技術が普及していない。シカ対策も必要。	路網整備モデルの検討 シカ対策のコスト削減の検討
実証試験や試作を終えたものを順次商品展開	価格戦略及び販売に向けたグランドデザインの不足	管外の実証と連携を図る 外部の視点を導入する 常設展示場などの普及手段を増やす
公共施設における地域材需要が拡大	民間施設における普及が不十分	技術センターがコーディネート機能に重点を移していけるようなしくみをつくる
工業技術センターの木工相談件数が大幅に増加	試作品製作等、それぞれの役割分担が十分に機能していない	森林と繋がりのある活動を実施 木育など様々な切り口でアプローチ
こども、川下を対象とした普及活動を実施	森林への意識や、購買層への訴求が不十分。 単独イベントがない。	

木づなプロジェクト 平成26年度活動(案)

平成26年度(案)

<u>もっと知る</u>	●品質 巧程調査<音別>、 <u>釧路型森林作業道モデルの検討</u>
<u>もっと使う</u>	●公共 音別町行政センター、市内17校への学習機導入 ●商品 カラマツオイル、木のお土産等 ●民間 大楽毛よしの幼稚園、釧路空港 くしろ・ねむろ「木づな」の家 ● <u>管外との連携 「店舗・事務所等における地域材利活用検討委員会」(北海道)</u>
<u>もっと伝える</u>	●研修 人材育成研修会等の実施 ●域内利用 メディアを活用したPR、木工教室や木育講座を通じた普及 <u>「木づなフェスティバル」の開催、第1期円卓会議の活動冊子発行</u> メイドイン釧路等イベントへの出展 ●域外利用 みなとモデル、成果品の常設展示(道庁)

下線部は第2期へ向けた足がかり